

# 颯走

(さつそう)

校部会  
高技G  
川競0  
屋上0  
寝陸0

会報 第21号  
2020年7月1日発行

http://www.neyagawa-rikujyo.net

## 明けない夜はない

### 奥田 二三夫(22期)

OB・OG会の皆様には  
お変わりなくご健勝にてお  
過ごしのことと存じます。  
さて、今年は100年に  
一度あるかないかの災いの  
年になってしまいました。  
これまでもSARSや新  
型コロナウイルスが流行し  
た年はありませんが、今回  
ほど国民生活全体に影響を  
及ぼした事例はなかったと  
思います。年が明けて中国  
で新型コロナウイルスが広まっ  
ているというニュースを見ま  
したが、その時点では世界  
中にもかかわらずと世界  
予想すらできませんでし  
た。その後は時間の経過と  
ともに、自粛生活・学校の  
休校・在宅勤務などコロナ  
の影響で社会生活はすっか

り変わってしまいました。  
そして、この影響をまとも  
に受けたのがスポーツ界だ  
と思います。オリンピック  
は来年に開催の可能性を残  
していますが、今年開催さ  
れる予定だった全国インタ  
ーハイが中止になってその  
予選会もなくなり、夏の甲  
子園大会や秋の国体までも  
中止になってしまいました。  
今年シーズンの飛  
躍を願い昨年からの積んでき  
た練習の成果を発揮する場  
がなくなってしまった高校  
生(特に3年生)の残念さ  
は推し量るものがありま  
す。その努力に少しでも応  
えようと、学校が再開され  
イベントも少しずつ認めら  
れるようになってきた現

在、大阪陸協でも7月後半  
頃から様々な対策を講じた  
上で何とか競技会を実施で  
きるように努力しております。  
高校生諸君は望みを捨て  
ずに今できる事を精一杯  
頑張ってくださいと思いま  
す。  
時は流れて現在は緊急事  
態宣言も解除され、少しづ  
つ元の生活に戻りつつあり  
ますが、第2波が到来する  
かもしれないと考えると油  
断はできない状況です。従  
いまして、別紙でもお伝え  
しておりますが、今年予定  
しておりました「70周年  
記念式典」と「総会及び現  
役対OB・OG戦」を中止  
させていただきましたことにな  
りました。ご理解をお願い  
します。  
「明けない夜はない」と  
言います。皆さん、後少し  
頑張りましょう。

## 訃報

田中文夫さん(14期)  
中谷 茂さん(14期)

OB・OG会設立の  
中心メンバーだった14  
期の田中さん・中谷さ  
んがお亡くなりになり  
ました。謹んでご冥福  
をお祈りいたします。  
同じく設立に尽力さ  
れました小森さんから  
田中さんへの追悼文を  
4面に、小久保さんか  
ら中谷さんへの追悼文  
を2面に掲載いたしま  
す。



会場

今年3月に高校を卒業さ  
れた72期の20名を、新しく  
OB・OG会のメンバーと  
して迎えました。

## 新OB・OG 72期



# 顧問の挨拶

内海 裕一先生

寝屋川高校陸上部OB・OGの皆様、平素より本校陸上部に格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。今年度も片岡美咲教諭、草加あみ教諭に副顧問としてご協力いただき、陸上部を指導してまいります。

さて、例年であれば厳しい冬季練習、3月の合同合宿を経て大きく成長し、チーム一丸となって最高の状態で5月の1・2地区予選および大阪インターハイに臨み、このチームでの集大成を発揮できたことをこの会報を通じて報告しております。

しかし、今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で3月から休校となり、部活動も自粛となって全体練習が行えず、楽しみにしていた合宿も中止にせざるを得ませんでした。それでも部員たちは大阪インターハイを目指して、可能な範囲で自主練習を続

けてきました。しかし感染はなかなか収束せず、8月の全国インターハイ、およびその予選にあたる大会がすべて中止となりました。

集大成の場を奪われた多くの3年生は、どれほど悔しかったでしょうか。絶対に「仕方ない」では片づけられません。入学から今までの陸上競技に賭けた思いを、その一言で片づけられるわけがありません。でも、3年生のみならず、君たちが陸上競技にかけた時間を、情熱を、決して無駄と思わないでください。誇りを持ってください。君たちが寝屋川高校陸上部で得た経験と、かけがえのない仲間、これからの人生において君たちの財産となりま

す。そして君たちの思いは、後輩たちに引き継がれていきます。2年生諸君、部活動が再開されたとき、先輩たちの思いを引き継ぎ、新たに入部する1年生とともにチームを作っていくきましょう。

11月には大阪高校駅伝があります。今年も多くの3年生に駅伝まで続けてほしいと、顧問として願っています。部活動があること、試合があること、競技ができることに感謝し、短距離やフィールド競技が専門だった3年生の思いを背負って、駅伝という闘いに挑んでほしいと思います。去年のようにチーム全員で、1年生から3年生まで、長距離の選手も短距離やフィールドの選手も、そして陸上部を支えてくれているマネージャーも、全員でチーム一丸となって、淀川で闘いましょう。

OB・OGの皆様、3月から部活動をまったく行えず、部員たちに話をするのができなかったため、会報の場をお借りして部員へのメッセージを伝えさせていただきます。そして今年も引き続きご支援のほど、よろしくお願

い申し上げます。

# 中谷先輩を偲んで

小久保 政司(15期)

先輩との出会いは、入学年の9月に陸上部に入部した時に、「僕も1年の途中まで、野球部に入ってたんだよ」と話しかけていた。朝、学校に行くとき、白杵先生と円盤投げの練習している姿を度々見かけました。3年になられた春先の朝練では、40mを越える投擲を何回もされ、(当時40mを投げる)と全国確実と言われていました。全国大会に出場されるものと思っていました。当日は大雨で実力を発揮できずに終わりました。



60周年記念式典でスピーチされる中谷さん

卒業後は、関西大学に進学されました。私が3年になった春4月、中谷さんが来られていた日に代表者会議が予定されていました。白杵先生が「中谷、代表者会議都合が悪くなったので代理で行ってくれ」ということで、輩音を受取に2人で行った事も忘れられない思い出です。大学では3回生まで競技を続けられ、投擲だけでなく、大きな体でリレーを走っている姿もよく見かけました。最終年で、弁護士になることを決意され、努力を重ねられ、その後、念願の弁護士になりました。開業後、よく事務所に寄せていただき、相談にのっていただきました。

三原先生のお祝い(還暦

・古希長寿を祝う会)で、「僕は、三原先生には本当にお世話になった。どれだけ感謝しても足りない。第二の親だと思っていま

す。ご冥福をお祈りいたします。

# 記録の訂正

颯走20号の記録で間違いがありましたので、訂正いたします。

第74回大阪高等学校総合

体育大会

1年女子砲丸投

安部 萌香

(誤) 9 m 78

← (正) 10 m 70

本人の持つ寝屋川高校最高記録を更新しております。

# このメッセージについて

例年だと沢山の試合の記録を整理しながらここに掲載することにより、頑張っている現役生たちを陰ながら応援している気持ちになっていました。今年も新型コロナウイルスの影響で、その試合が全くない状態であり、現役生たちの気持ちや思いを伝えることが難しくなりました。そんな折、ネットでの記事を見て、これを現役生たちにも読んでもらいたいと思い、新聞社や末續慎吾選手の関係先に問い合わせを許諾を得ました。

末續選手のマネージャーさんからは、「末續に相談いたしました所、『1人でも多くの後輩たちへ想いを伝えられればと思っておりますので、是非、記事を使ってください』との事でした。」と快諾いただいております。

末續選手は他にもブログで発信されていますので、「末續慎吾オフィシャルブログ」で検索してご覧ください。

# 末続慎吾が高校生にメッセージ

## 「総体中止に絶望、それは君が真剣だったから」「あきらめるな」

高校生の君へ。

全国高校総体が中止となった。僕らスポーツに携わり人生を歩んできた人間にとって、高校総体はいわば「大学受験」みたいなものだった。高校総体を通して、これから先のことも考えていた高校生は、不安でいっ

ぱいではないか。だからこそ、今の君たちに伝えたいことがある。

僕にとって高校総体は、必ずしも輝かしいものではなかった。1年は200メートルで予選敗退、2年は200メートルで8位。3

年では大会約1か月前に体育の授業で足を18針縫う大けがをして、100メートルで8位、200メートルは走りきれず予選敗退。語り継がれるほどの実績ではない。ただ、今思えばそれも幸せなことだった。

その後も陸上を続け、日

本、アジアで一番になった。そして五輪、世界選手権でメダルを取った。僕はスポーツ選手が持つ夢を叶えた。

でも、同時に夢そのものも失った。叶えてしまったのだから。僕は勝つことだけを、メダルを目指した。勝利やメダルという「結果」が夢だった。でも、その夢を叶えた後、どうしても幸せを感じられなかった。

そして僕が知ったのは、大切なのは夢を叶えたかどうかではないということ。一番大切なのは、「どれだけ真剣にできたか」ということだと知った。

突然、目の前から夢や目標がなくなった時、君は何を思っただろうか？ 真剣であればあったほど、絶望

や虚無感を覚えただろう。でも、これだけは言える。それは君が本当に真剣だったからだ。絶望を目にした今は、本当は君たちにとって一番大切なことを知る時間でもある。

高校総体は中止でも、それだけで人生は終わらないし、全ての答えになることも絶対ない。今できることを真剣にしていれば、その誠実さを見て、過程を見て、導いてくれる大人は必ずいる。少なくとも僕はそういう大人に何度も救われ、これまで走ってこられた。

だからこそ、今は真剣さを失うな。そして、あきらめるな。

5月3日読売新聞掲載

# 「文ちゃん」を偲んで

## 小森 泰弘(14期)



2014年8月の現役対OBOG戦で走る田中さん

「文ちゃん」こと田中文夫君と私は昭和34年に寝屋川高校に入学しました。

当時は野球部が強く甲子園に3度も出場した直後でした。野球部は誇り高きアスリートでした。現ソフトバンク会長(世界のホームラン王) 早稲田実業の王選手と対戦し0対2で敗れました。体格も大きく、ノーワインダップで投げてくるボールを打てなかったようです。近年、陸上部の先輩の寺倉氏が王会長と話をする機会があり、そこで王会長は昔の寝屋川高校との対

戦を覚えてくれていたそうです。私も中学時代に甲子園で早実の王選手を見たことがあります。それは凄かったです。今の太谷選手、佐々木選手ですね。当時はテレビもなかった頃です。

さて、陸上部はトラックが使えず50mのダッシュを繰り返していました。文ちゃんは長距離でした。中学時代は吹田中、後の全日本一位の沢木選手と競い合っていた有望な選手でした。しかし高校時代はあまり走っていないのを見た記憶があ

りません。なぜでしょうか？トラックがなかったからでしょうか、わかりません。

それより、ハンマーを回したり、槍を投げたり、鉄棒をしたり、それに棒高跳もしていました。今と違ってマットはありませんので砂場の砂の上に落ちていました。後輩の小久保君も指導していました。今では考えられませんね。器用な選手でした。

息子さんは高校時代に野球部で大きく報道されました。何だったと思いますか？奥さんに聞いたところ、

ろ、左右投げ、左右打ち、4つも出来たそうです。こういう選手はいまだ見たことがありません。新聞社がニュースにしたはずです。この器用さは父さん(文ちゃん)のDNAを受け継いだのですね。

大学は大阪市大の家政学部に入りました。クラブは陸上部に入って熱心に走っていました。関西学生駅伝では国道9号線の西京極から須知までの往復コースでした。峠が2つも3つもありアップダウンのきつい厳しいコースでした。私は監督車に乗っており、母校の大教大と大阪市大の2校を応援していました。

卒業後は一級建築士の資格とコンピュータを駆使してユニークな家を建てていました。

20代の中頃、暇を見つけてはスキーに力を入れていました。黒姫高原で20人、30人が夕食も忘れて滑っていました。奥さんも一緒に熱心でした。当時私もスキーに夢中でインストラクター

1もしており、文ちゃん、奥さん、横井君の滑りを50年たった今でもはつきりと思い出されます。

70歳を過ぎて福井県の勝山へ何度か誘われたのですが一度も一緒に行きませんでした。文ちゃんの一番の趣味だったのではないかと考えています。

古希の会、学年の同期の会も見事に世話をしてくれました。

そしてOB・OG会結成については我々仲間では長年の懸案事項でありました。5年かけて準備しました。何から手をつけていいか？文ちゃんは即座に第一は名簿作成であると。すっかり名簿については任せきりでした。それ以外にも、会費集めから現役生への援助まで駆け回ってくれました。文ちゃん、何もかもありがとう。あの5年間は長くはなかつたです。

50代で亡くなった国分氏、竹林氏に会いましたか？話をしましたか？冥福を祈る。

事務局からのお願ひ

OB・OG会は皆様からの会費・寄付で現役生への援助や会運営・会報発行を行っております。郵便振替用紙を同封しておりますので、令和2年度会費・寄付の納入をお願いいたします。

「颯走」では自薦他薦を問わず記事・情報を募集しております。

記事・情報のほか、住所変更や問い合わせ等は事務局までご連絡ください。

編集後記

今号は各面に写真を載せましたので、颯走初のカラー印刷にしてみました。創部70周年パーティーや総会等が中止となったり、田中先輩・中谷先輩と相次いで訃報が届き、大変残念です。次号では嬉しい記事・楽しい記事をたくさん届けてい